

きもの豆知識

野生の絹の美しさ

家蚕と野蚕

絹系になる蚕には大きく分けて、家蚕と野蚕のふたつあります。皆さんがなじみのある多くの着物に使われているお蚕さんは養蚕された家蚕（かさん）で、繊細で均一でしなやかな糸を取ることができます。

一方、野蚕の蚕は文字通り野生の蚕なので、生息する場所や風土などの環境によって個性的で、力強い糸を取ることができます。

インド産のタッサールシルク

タッサールシルクの特徴は、光沢があることと、シャリ感があること。一本一本の繊維が太く、また精練も途中で止めているので、かなり丈夫です。生糸の他、ギッチャ系、ナーシ系など糸質にバリエーションのあるのも特徴です。



3月のたんぽぽ会ではタッサールシルクを使った着物、帯をご紹介します。

歌舞伎のススメ

～市松柄（いちまつがら）について～

市松柄といえば、着物に興味のない方でもご存知の方が多いと思います。市松柄は古くからの文様で、江戸時代以前は石畳と呼ばれていたそうです。その模様を江戸時代の歌舞伎役者佐野川市松（さのかわいちまつ）が『心中万年草（しんじゅうまんねんそう）』で寺小姓、成田久米之介（なりたくめのすけ）を演じた際に、白と紺の石畳柄の袴を着たのがきっかけで大流行しました。以来、佐野川市松の市松（いちまつ）が文様の名前となりました。歌舞伎で使われる市松は舞台衣装らしいおおきくて正方形のものが多く、くっきりと鮮やかです。市松の柄が大流行した、元禄の自由で華やかな雰囲気のお芝居に使われることが多いようです。

市松柄の衣装を見ることができる演目は『菅原道真手習鑑（すがはらのみちざねてならいかみ）』の〈賀の祝〉で梅王丸が着ている衣装や『鳥辺山心中（とりべやましんじゅう）』のお花の帯、『女暫（おんなしばらく）』の巴御前（ともえごぜん）が片肌を脱いで花道を登場するシーンなどで見ることができます。

演目の内容だけでなく役者が着ている衣装などにも注目してみるとより歌舞伎の魅力も増して、ますます面白くなるかもしれませんね。



かわちやの

着付教室 12回

1回1000円

かわちやの着付け教室ではそれぞれの目的やスケジュールにあわせたカリキュラムを組んでいきます。

お気軽にご相談ください。

お問い合わせは

TEL 0563-35-0039 大橋幸子まで



竹次郎～ TAKEJIRO CAFE ～ コラム

昨年11月から、毎月1週間限定の竹次郎～ TAKEJIRO CAFE ～の座敷席にホットカーペットが入りました。温かくて快適なので、人気の席ですよ。子供連れの方にも人気です。



着物クリーニング

何でも 汚れの種類や程度によって追加料金がかかる場合がございます。

2点7,560円

着たあとのお手入れは大切！

草木染講習会

日時 2月22日（水）

午前の部 9:30～午後の部 13:00～

会費 1,000円（1回につき）+材料費

用意するもの：厚手のゴム手袋、エプロン

型染めでお雛さんを染めよう！



今回はこの季節にしか楽しめないお雛様を染めます。

草履・下駄はありますか？

履物の調整

1足500円



イベント案内

ギャラリーカフェ

竹次郎 TAKEJIRO CAFE

1月19日（木）～23日（月）

振袖・ガラスのお雛様を特集します。